



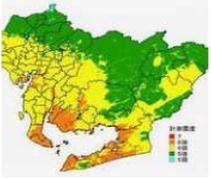
©豊橋市トヨッキー

萩本 茂夫



(公社) 愛知県建築士事務所協会東三河支部

支部長



南海トラフ本気の対策を



前回と今回の被害想定と比較
(いずれも最大時)

	前回	今回
死者	32万3000人	29万8000人
全壊・消失棟数	238万6000棟	235万棟
停電	2710万軒	2950万軒
断水人口	3440万人	3690万人
避難者	950万人	1230万人
食料不足(3日分)	237兆2000億円	292兆3000億円

前回の想定公表は2012～13年。想定する地震はマグニチュード (M) 9級の最大クラスの地震です。有史以来起きてきた南海トラフ地震より大規模で、次の地震がこの規模になる可能性は高くありません。11年の東日本大震災が過去の宮城県沖の地震と比べ巨大だったため、想定外の事態が生まれないことを目指し、最大クラスの地震が想定されています。

地形データの精緻化により浸水範囲が拡大し、津波被害が大きくなっています。

住宅の耐震化率も、前回想定当時は20年までの95%達成を目指していましたが、実際は**23年時点で90%程度**にとどまるなど、国民や産業界の対策が遅れています。先発地震後、大きな被害がない地域が後発地震に備える目的で19年、「南海トラフ地震臨時情報」の制度も始まりました。試算では、津波による死者数は減りますが、**建物は2度の強震に見舞われるため被害が増大します**。こうした結果を参考に今後の対策を考える必要があります。南海トラフ地震は日本人の役半数が被災する巨大地震です、前回の地震から約80年、本気で対策を進める時だと思えます。

豊橋市木造住宅無料耐震診断も
引き続き受付中！



事務所協会QRコード

木造住宅耐震診査・家具の固定が重要！

耐震関係 豊橋市役所 建設部 建築物安全推進課(東館3階) 電話 51-2579